

「十字架を担ぐ」

マルコ章 15 節21～32節

イエス様が十字架を担って歩かれていたとき、重さのために倒れてしまわれました。そこで兵士たちは、近くにいたキレネのシモンに十字架を担がせました。シモンにとって、それは突然の出来事でした。

「なぜ自分がこんなことをしなければならないのか」

と思ったことでしょう。囚人と一緒に歩くことになり、心の中では不満もあったかもしれません。

しかしマルコ福音書は、彼のことを「アレクサンドロとルフォスの父」と書いています。これは、この息子たちが初代教会でよく知られた人であったことを示しています。つまりシモンは、後になってイエス様を信じる人になり、その家族も信仰の家族になったと考えられます。最初はただの苦しみと思えた出来事が、後になってみるとイエスの十字架を共に担った出来事になりました。それは彼の人生の大きな恵みとなり、宝物となりました。

私たちの人生にも苦しみがあります。しかしその苦しみを、ただの苦しみとしてではなく、イエスとともに担う十字架として受け止めるなら、それは復活の恵みに向かう歩みになります。

イエス様が十字架を担われたからこそ、私たちの苦しみも無意味ではありません。それはやがて恵みとなり、人生の宝となる可能性があります。

日本キリスト教団 浦河教会

週報

No. 49 2026年3月8日



〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

伝道師 大槻茂勝

090-9716-1353

2026年3月8日 (No.49)

復活前第4・受難節第3主日礼拝

司会 早坂 潔 ・ 奏楽 松村 宣恵

ぜん そう いち どう
前 奏 一 同

さんびか いち どう
讃美歌 8 5 (2回) 一 同

いの しかいしゃ
祈 り 司会者

せい しょ しかいしゃ
聖 書 マルコ 15 章 21~32 節 司会者

(新約聖書 95 頁)

さんびか いち どう
讃美歌 5 2 2 一 同

せつ きょう ぼく し
説 教 「十字架を担ぐ」 牧 師

さんびか いち どう
讃美歌 9 1 一 同

けんきん かんしゃ いの いち どう
献金 と感謝 の祈り 一 同

しゅ いの いち どう
主の祈り 6 2 一 同

しょう えい いち どう
頌 栄 キリストの平和が (1, 5) 一 同

しゅく とう ぼく し
祝 祷 牧 師

ほう こく
報 告

あたら こ なた ひさ なた しょうかい
新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【今週の集会】

いっしょ せいしょ よ いの かい
◇一緒に聖書を読み祈る会

3月11日 (水) 19時より

〈コヘレトの言葉9章1~3節〉旧約1044頁

【次週の予定】

◇主日礼拝

3月15日 (日) 14時

聖書 マルコ 15 章 33~41 節 96 頁

讃美歌 5 3 1・9 1

いっしょ せいしょ よ いの かい
◇一緒に聖書を読み祈る会

3月18日 (水) 19時より

〈コヘレトの言葉9章4~6節〉旧約1044頁

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ①山本充枝 ②内村直人 ③半田かおる
- ④伊藤知之 ⑤山根耕平 ⑥岸澤恵美
- ⑦高崎 晋 ⑧早坂 潔 ⑨荻野 仁 ⑩和田智子

⑪吉田公子 ⑫大矢英明 ⑬岸上 浩

【集会統計】

集会名	出席者	献金
主日礼拝 (2月22日)	15 名	2,859 円
3月1日主日礼拝	14 名	3,983 円
祈祷会	3 名	
(3月4日)讃美歌 280・390		

・頌栄 キリストの平和が

1. キリストのへいわが
わたしたちのこころのすみ
ずみにまで 行きわたりま
すように

5. キリストのゆるしが
わたしたちのこころのすみ
ずみにまで 行きわたり
ますよう